

8. 調査の結果

8.1 生物の生息・生育基盤

8.1.1 調査事項

調査事項は、表 8.1-1 に示すとおりである。

表8.1-1 調査事項

区 分	調査事項
予測した事項	<ul style="list-style-type: none"> 生物・生態系の賦存地の改変の程度 新たな生物の生育・生息基盤の創出の有無並びにその程度
予測条件の状況	<ul style="list-style-type: none"> 既存緑地の改変の程度 植栽基盤（土壌）の状況 緑化計画
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 広場予定地を中心に芝コースを配置し、植樹エリアの改変が可能な限り少なくなる計画としている。 計画地内に生育する約 2 万本の既存樹木（9 割以上は幼苗・幼木）については、基本的に海の森公園（仮称）内へ樹齢や樹種等に応じて適切に移植する計画としている。 芝コース・ウォームアップエリアには在来種のノシバを張芝する計画としている。 樹林地内に配置する芝コースの路盤は「山砂＋土壌改良材」とし、自然遷移が進みやすく樹林地に戻る構造とする。 移植後の状況については、フォローアップで確認する。

8.1.2 調査地域

調査地域は、計画地とした。

8.1.3 調査手法

調査手法は、表 8.1-2 に示すとおりである。

表8.1-2 調査手法

	調査事項	生物・生態系の賦存地の改変の程度 新たな生物の生育・生息基盤の創出の有無並びにその程度
	調査時点	工事中及び工事終了後の適宜とした。
調査期間	予測した事項	工事終了後とした。
	予測条件の状況	
	ミティゲーションの実施状況	工事中及び工事終了後の適宜とした。
調査地点	予測した事項	計画地とした。
	予測条件の状況	
	ミティゲーションの実施状況	
調査手法	予測した事項	任意踏査による植生の状況を整理する方法とした。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とした。
	ミティゲーションの実施状況	

8.1.4 調査結果

(1) 調査結果の内容

1) 予測した事項

ア. 生物・生態系の賦存地の改変の程度

計画地は、埋立てにより平坦化された人工地盤の区域であり、自然地形等は存在していなかったが、陸域には樹高 0.5～10m の植樹林が存在し、樹冠を形成している植樹林の土壌表面には落葉等により腐植層が成立しており、土壌生物の生育環境として利用されていたほか、動物の生息環境を創出する植生の生育基盤となっていた。

事業の実施にあたっては、広場を中心に芝コースを配置し、植樹エリアの改変が少なくなるように努めた。また、海の森公園（仮称）の公園計画のための間伐として、計画地内に生育する樹木のうち 1,074 本を伐採したものの、エノキ、アキニレ、オオシマザクラ、スダジイ、タブノキ、クロマツ等 11,195 本については、樹齢や樹種に応じ海の森公園（仮称）内に適切に移植を行った。さらに、芝コースの路盤に関しては、山砂に土壌改良材としてピートモスを加え、自然遷移が進みやすく、自然地に戻りやすい構造とした。今後、落葉等により周辺と連続した腐食層や土壌生物の生育環境、植生の生育基盤が創出されるものとする。

イ. 新たな生物の生育・生息基盤の創出の有無並びにその程度

事業の実施にあたっては、競技の兼ね合いから新たな樹木による緑化は行っていないが、広場を中心に芝コースを配置し、植樹エリアの改変が少なくなるように努めた。また、海の森公園（仮称）の公園計画のための間伐として、計画地内に生育する樹木のうち 1,074 本を伐採したものの、エノキ、アキニレ、オオシマザクラ、スダジイ、タブノキ、クロマツ等 11,195 本については、樹齢や樹種に応じ海の森公園（仮称）内に適切に移植を行い、既存と同様の生物の生育・生息基盤を創出した。

2) 予測条件の状況

ア. 既存緑地の改変の程度

「1) 予測した事項」に示すとおり、広場を中心に芝コースを配置することで改変面積を小さく抑えていることを確認したほか、エノキ、アキニレ、オオシマザクラ、スダジイ、タブノキ、クロマツ等の移植樹木について確認した。

イ. 植栽基盤（土壌）の状況

芝コースの路盤には、山砂に土壌改良材としてピートモス¹を加え、自然遷移が進みやすく、自然地に戻りやすい構造とした。

ウ. 緑化計画

「1) 予測した事項」に示すとおり、広場を中心に芝コースを配置することで改変面積を小さく抑えていることを確認したほか、エノキ、アキニレ、オオシマザクラ、スダジイ、タブノキ、クロマツ等の移植樹木について確認した。

¹ 水苔の堆積した泥炭土を洗浄・乾燥したもの。土壌の通気性と保水性の増大、膨軟化、保肥力の増加等に効果がある。

3) ミティゲーションの実施状況

ミティゲーションの実施状況は、表 8.1-3 に示すとおりである。生物の生育・生息基盤に関する苦情はなかった。

表8.1-3 ミティゲーションの実施状況

ミティゲーション	実施状況
<ul style="list-style-type: none"> ・ 広場予定地を中心に芝コースを配置し、植樹エリアの改変が可能な限り少なくなる計画としている。 	植樹エリアの改変が可能な限り少なくなるように芝コースを配置した。植樹エリアの既存樹木のうち、エノキ、アキニレ、オオシマザクラ、スダジイ、タブノキ、クロマツ等 11,195 本については移植を行い、伐採樹木は 1,074 本であった。(写真 8.1-1～写真 8.1-3)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画地内に生育する約 2 万本の既存樹木（9 割以上は幼苗・幼木）については、基本的に海の森公園（仮称）内へ樹齢や樹種等に応じて適切に移植する計画としている。 	既存樹木のうち、生育が良いと判断されたエノキ、アキニレ、オオシマザクラ、スダジイ、タブノキ、クロマツ等 11,195 本については、樹齢や樹種に応じ海の森公園（仮称）内に適切に移植を行った。(写真 8.1-1～写真 8.1-3)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 芝コース・ウォームアップエリアには在来種のノシバを張芝する計画としている。 	芝コース及びウォームアップエリアにはノシバを使用した。(写真 8.1-4～写真 8.1-5)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 樹林地内に配置する芝コースの路盤は「山砂＋土壌改良材」とし、自然遷移が進みやすく樹林地に戻る構造とする。 	芝コースの路盤には、山砂に土壌改良材としてピートモスを加えたものを利用した。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 移植後の状況については、フォローアップで確認する。 	移植後の状況について、順調に生育していることを確認した。



写真 8.1-1 移植樹木①



写真 8.1-2 移植樹木②



写真 8.1-3 移植作業



写真 8.1-4 芝コース



写真 8.1-5 ウォームアップエリア

(2) 予測結果とフォローアップ調査結果との比較検討

1) 予測した事項

ア. 生物・生態系の賦存地の改変の程度

計画地は、埋立てにより平坦化された人工地盤の区域であり、自然地形等は存在していなかったが、陸域には樹高 0.5～10m の植樹林が存在し、樹冠を形成している植樹林の土壤表面には落葉等により腐植層が成立しており、土壤生物の生育環境として利用されていたほか、動物の生息環境を創出する植生の生育基盤となっていた。

事業の実施にあたっては、広場を中心に芝コースを配置し、植樹エリアの改変が少なくなるように努めた。また、海の森公園（仮称）の公園計画のための間伐として、計画地内に生育する樹木のうち 1,074 本を伐採したものの、エノキ、アキニレ、オオシマザクラ、スダジイ、タブノキ、クロマツ等 11,195 本については、樹齢や樹種に応じ海の森公園（仮称）内に適切に移植を行った。さらに、芝コースの路盤に関しては、山砂に土壤改良材としてピートモスを加え、自然遷移が進みやすく、自然地に戻りやすい構造とした。今後、落葉等により周辺と連続した腐食層や土壤生物の生育環境、植生の生育基盤が創出されるものとする。

以上のことから、予測結果に対しフォローアップ調査結果は概ね一致しているとする。

イ. 新たな生物の生育・生息基盤の創出の有無並びにその程度

事業の実施にあたっては、競技の兼ね合いから新たな樹木による緑化は行っていないが、広場を中心に芝コースを配置し、植樹エリアの改変が少なくなるように努めた。また、海の森公園（仮称）の公園計画のための間伐として、計画地内に生育する樹木のうち 1,074 本を伐採したものの、エノキ、アキニレ、オオシマザクラ、スダジイ、タブノキ、クロマツ等 11,195 本については、樹齢や樹種に応じ海の森公園（仮称）内に適切に移植を行い、既存と同様の生物の生育・生息基盤を創出した。

以上のことから、予測結果に対しフォローアップ調査結果は概ね一致しているとする。